

「海洋底探査センター」の設置について

副学長（研究推進） 小田啓二
理学研究科惑星学専攻 巽 好幸

平成 27 年 10 月 1 日、全学共同教育研究組織として「海洋底探査センター」が発足します。

平成 19 年に施行された海洋基本法を受け、海洋基本計画の下で、海洋資源の開発及び利用の推進、海洋環境の保全、海洋調査の推進、海洋産業の振興などの具体策が進められていることはご存知のとおりです。同時に経済界からも、海洋資源探査の技術開発とともに、海洋を舞台として活躍できる人材の育成の重要性が指摘されており、平成 26 年度には、SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の「次世代海洋資源調査技術」（通称、「海のジパング計画」）が指定され、この中で大学・教育機関が担う役割として、人材育成とともに探査センターの設立が謳われております。本年 7 月 20 日海の日特別行事における、「海洋開発技術者の数を 2030 年までに 5 倍に引き上げる」との首相スピーチにも、海洋人材育成に関する国の強い意思が表れています。

本学では、こうした流れを受けて平成 25 年度に、海洋立国を支える海技者養成教育の高度化と総合性を備えたグローバル海洋人材の養成を目指した海事科学部の改組（平成 25 年）、同年の海洋研究開発機構（JAMSTEC）との包括連携協定の締結、平成 27 年度の理学研究科惑星学専攻の設置など、海洋開発・海洋人材育成に対応してまいりました。本年 4 月からの新体制では、先端研究・文理融合を骨子とした「武田ビジョン」の下で種々の機能強化策が打ち出されたことは 5 月の定例会見で学長より紹介されたとおりですが、それに続く新たな機能強化策のひとつとして、自然科学系研究科が中心となって分野融合型の新しい取組みについて検討し、今回の海洋底探査センター」の設置となりました。

この新センターでは、国際都市に位置する本学の特徴を生かして、理学研究科で展開されてきた世界をリードする海域先端研究をコアに、海事科学研究科で培われてきた練習船深江丸を用いた海洋人材育成に関する教育研究と、工学研究科をはじめとする学内他研究科が持っている資源や技術を凝集させることにより、海洋底探査にかかわる広い範囲の科学技術を機能的に融合した国内唯一となる教育研究拠点を構築することを目的としております。